

2017年3月期(平成29年3月期)

# 第2四半期決算説明会

2016年11月22日



# 技術のジャムコは、 士魂の気概をもって

- 一、夢の実現にむけて挑戦しつづけます。
- 一、お客様の喜びと社員の幸せを求めています。
- 一、自然との共生をはかり、豊かな社会づくりに貢献します。

- この資料に掲載されている情報のうち歴史的事実以外のものは、発表時点で入手可能な情報に基づく当社の経営陣の判断による将来に関する見通しであり、経済動向、為替レート、市場需要、税制や諸制度に関するさまざまなリスクや不確実な要素を含んでおります。実際の業績はこれらの見通しとは異なる結果があり得ることをご承知おきください。
- この資料における数値は、表示桁未満を四捨五入して作成、表示しております。したがって、決算短信、有価証券報告書など、表示桁未満を切捨てて作成、表示している資料とは末尾数値が異なる箇所がございますのでご了承ください。
- 本資料を(株)ジャムコの許可無く転載・複写することを禁じます。又、本資料を使用することにより生じたいかなる損害について(株)ジャムコは一切責任を負いません。



## Contents

### SECTION

# 1

## 2017年3月期 第2四半期決算の状況

- 04 | グループ連結P/L (前年同期比)
- 05 | セグメント別売上高 (前年同期比)
- 06 | セグメント別経常利益 (前年同期比)
- 07 | グループ連結P/L (当初計画比)
- 08 | セグメント別売上高 (当初計画比)
- 09 | セグメント別経常利益 (当初計画比)
- 10 | グループ連結B/S
- 11 | グループ連結 設備投資額/減価償却費/試験研究費
- 12 | グループ各社の状況 (FY16/上期)
- 13 | 通期見通し

### SECTION

# 2

## 重要項目と課題進捗

- 15 | 中期ビジョン
- 16 | 中期の課題と対応
- 17 | 中期課題の進捗-①
- 18 | 中期課題の進捗-②
- 19 | 中期課題の進捗-③

# 2017年3月期 第2四半期決算の状況

- 04 | グループ連結P/L (前年同期比)
- 05 | セグメント別売上高 (前年同期比)
- 06 | セグメント別経常利益 (前年同期比)
- 07 | グループ連結P/L (当初計画比)
- 08 | セグメント別売上高 (当初計画比)
- 09 | セグメント別経常利益 (当初計画比)
- 10 | グループ連結B/S
- 11 | グループ連結 設備投資額／減価償却費／試験研究費
- 12 | グループ各社の状況 (FY16/上期)
- 13 | 通期見通し

## SECTION 1

## グループ連結の比較(P/L)(前年同期比)

【単位:百万円】

	FY16上期 (実績)	FY15上期 (実績)	増減	増減率 (%)
売上高	40,248	42,555	△ 2,306	△ 5
営業利益	△ 294	3,908	△ 4,202	—
経常利益	△ 1,760	3,981	△ 5,741	—
税引前利益	△ 1,784	3,970	△ 5,754	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△ 1,123	2,691	△ 3,814	—
1株当たり四半期純利益 (円)	△ 41.85	100.31	—	—
売上為替レート (円/USドル)	107.76	121.49	—	—



## セグメント別売上高(前年同期比)

【単位:百万円】

	FY16上期 (実績)	FY15上期 (実績)	増減	増減率 (%)
売 上 高	40,248	42,555	△ 2,306	△ 5
内装品及びシートセグメント 合 算 値	33,890	35,157	△ 1,267	△ 4
内 装 品 セ グ メ ン ト	28,241	—	—	—
シ ー ト セ グ メ ン ト	5,649	—	—	—
機 器 製 造 セ グ メ ン ト	3,246	3,409	△ 163	△ 5
整 備 セ グ メ ン ト	3,113	3,989	△ 876	△ 22

(注)FY15上期(実績)の内装品セグメント及びシートセグメントの金額は算定していないので「—」と表示しています。

## Point

- 内装品は787関連が増加したものの、777X開発の端境期によりギャレーが減少／円高による外貨建て売上高の減少
- シートの販売は前年同期に対して増加
- 機器製造はエアバスA380型機向けADPの生産量が減少／円高による外貨建て売上高の減少
- 整備は好調に推移した前年同期に対して完成工事が減少

## セグメント別経常利益(前年同期比)

【単位:百万円】

	FY16上期 (実績)	FY15上期 (実績)	増減	増減率 (%)
売上総利益	4,142	8,497	△ 4,355	△ 51
販管費	4,436	4,589	△ 153	△ 3
営業外損益	△ 1,466	73	△ 1,539	—
経常利益	△ 1,760	3,981	△ 5,741	—
内装品及びシートセグメント合算値	△ 1,638	3,653	△ 5,290	—
内装品セグメント	461	—	—	—
シートセグメント	△ 2,099	—	—	—
機器製造セグメント	△ 86	248	△ 333	—
整備セグメント	△ 35	80	△ 115	—
その他	△ 1	2	△ 3	—

(注1)「その他」はオレンジジャムコ、ジャムコテクニカルセンターの事業を含んでおります。

(注2)FY15上期(実績)の内装品セグメント及びシートセグメントの金額は算定していないので「—」と表示しています。

## Point

## ■ 販管費

- 経費節減により減少

## ■ 営業外損益

- 為替レートの急激な変動を受けて為替差損を計上(為替差損 約13億円)

## ■ 経常利益

- 内装品は円高による売上高の目減りの影響、工事損失引当金の追加による売上原価の増加等により減益
- シートは約21億円の損失となったが、前年同期に比べコスト削減が進み工事損失引当金が減少
- 機器製造は円高による売上高の目減りの影響、A350型機向け炭素繊維構造部材の初期の生産コスト増等により減益
- 整備は売上高の減少に伴い減益

## グループ連結P/L(当初計画比)



【単位:百万円】

	FY16上期 (実績)	FY16上期 (当初計画)	増減	増減率 (%)
売上高	40,248	41,960	△ 1,712	△ 4
営業利益	△ 294	2,382	△ 2,676	—
経常利益	△ 1,760	2,255	△ 4,015	—
税引前利益	△ 1,784	2,240	△ 4,024	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△ 1,123	1,423	△ 2,546	—
1株当たり四半期純利益 (円)	△ 41.85	53.05	—	—
売上為替レート (円/USドル)	107.76	110.00	—	—

(注)当初計画とは、2016年5月18日の決算発表時の業績予想数値です。

## セグメント別売上高(当初計画比)

【単位:百万円】

	FY16上期 (実績)	FY16上期 (当初計画)	増減	増減率 (%)
売上高	40,248	41,960	△ 1,712	△ 4
内装品及びシートセグメント 合算値	33,890	35,505	△ 1,615	△ 5
内装品セグメント	28,241	—	—	—
シートセグメント	5,649	—	—	—
機器製造セグメント	3,246	3,235	11	0
整備セグメント	3,113	3,220	△ 107	△ 3

(注1)当初計画とは、2016年5月18日の決算発表時の業績予想数値です。

(注2)FY16上期(当初計画)の内装品セグメント及びシートセグメントの金額は算定していないので「—」と表示しています。

## Point

- 内装品及びシートは円高によるドル建て売上高の目減り、シートの一部の工事の出荷が第3四半期以降に繰り延べとなったことなどで減少
- 機器製造は炭素繊維構造部材が円高の影響を受けたものの、防衛関連製品等が増加したことで微増
- 整備は部品整備の売上高が減少



## セグメント別経常利益(当初計画比)

【単位:百万円】

	FY16上期 (実績)	FY16上期 (当初計画)	増減	増減率 (%)
売上総利益	4,142	7,503	△ 3,361	△ 45
販管費	4,436	5,121	△ 685	△ 13
営業外損益	△ 1,466	△ 127	△ 1,339	—
経常利益	△ 1,760	2,255	△ 4,015	—
内装品及びシートセグメント合算値	△ 1,638	2,082	△ 3,720	—
内装品セグメント	461	—	—	—
シートセグメント	△ 2,099	—	—	—
機器製造セグメント	△ 86	226	△ 312	—
整備セグメント	△ 35	△ 45	10	—
その他	△ 1	△ 8	7	—

(注1)「その他」はオレンジジャムコの事業を含んでおります。

(注2)FY16上期(当初計画)の内装品セグメント及びシートセグメントの金額は算定していないので「—」と表示しています。

## Point

## ■ 販管費

- 経費節減により減少

## ■ 営業外損益

- 為替レートの急激な変動を受けて為替差損を計上(為替差損 約13億円)

## ■ 経常利益

- 内装品は円高による売上高の目減りの影響、工事損失引当金の繰入額の増加などにより減益
- シートは円高の影響により計画していた採算性が実現できず、予定以上の工事損失引当金を追加計上
- 機器製造はA350型機向け炭素繊維構造部材の初期の生産コスト増等により減益
- 整備は売上高が減少したが利益面は計画通り推移

## グループ連結B/S

【単位:百万円】

科目	FY16 2Q末 2016年9月30日現在	FY15 末 2016年3月31日現在	増減
〈資産の部〉			
<b>流動資産</b>			
現金及び預金	2,678	3,479	△ 801
受取手形及び売掛金	18,119	20,233	△ 2,114
棚卸資産	40,164	42,210	△ 2,045
その他流動資産	5,383	6,710	△ 1,327
<b>流動資産合計</b>	<b>66,344</b>	<b>72,632</b>	<b>△ 6,287</b>
<b>固定資産</b>			
有形固定資産	14,363	14,496	△ 134
無形固定資産	1,375	1,214	161
投資その他の資産	3,854	3,943	△ 89
<b>固定資産合計</b>	<b>19,591</b>	<b>19,653</b>	<b>△ 62</b>
<b>資産合計</b>	<b>85,936</b>	<b>92,284</b>	<b>△ 6,349</b>

科目	FY16 2Q末 2016年9月30日現在	FY15 末 2016年3月31日現在	増減
〈負債の部〉			
<b>流動負債</b>			
支払手形及び買掛金	13,221	15,216	△ 1,995
短期借入金	22,630	22,374	256
その他流動負債	12,572	14,153	△ 1,581
<b>流動負債合計</b>	<b>48,424</b>	<b>51,743</b>	<b>△ 3,319</b>
<b>固定負債</b>			
長期借入金	4,700	5,100	△ 400
その他固定負債	7,417	7,239	178
<b>固定負債合計</b>	<b>12,117</b>	<b>12,339</b>	<b>△ 222</b>
<b>負債合計</b>	<b>60,540</b>	<b>64,082</b>	<b>△ 3,542</b>
〈純資産の部〉			
<b>純資産合計</b>	<b>25,396</b>	<b>28,202</b>	<b>△ 2,807</b>
<b>負債及び純資産合計</b>	<b>85,936</b>	<b>92,284</b>	<b>△ 6,349</b>

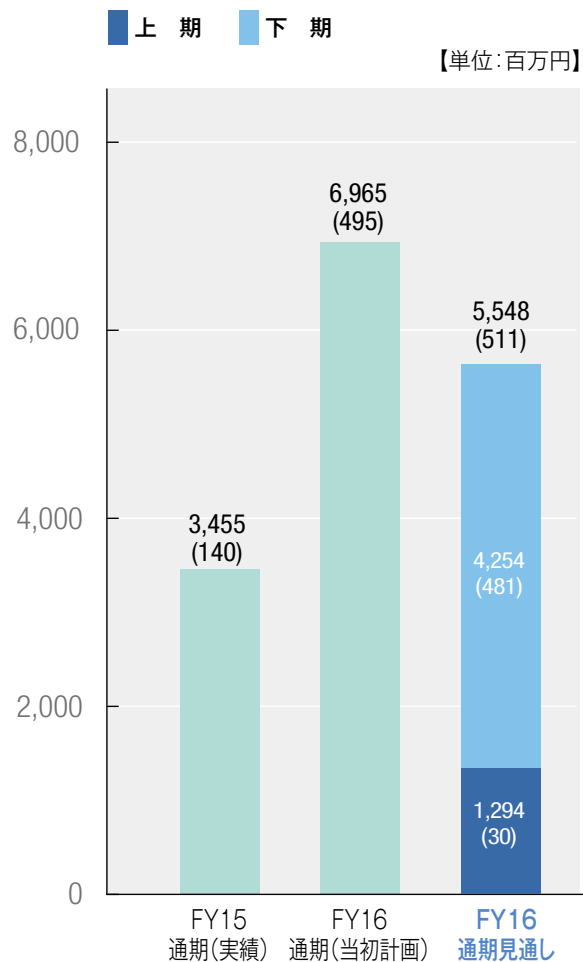
## Point

- 流動資産はシートの出荷増加、円高による外貨資産の目減りなどで減少（△62億円）
- 流動負債は支払手形及び買掛金の減少、その他流動負債の減少などで減少（△33億円）
- その他流動負債増減の内訳 工事損失引当金 18億→30億円（+12億円）未払法人税、前受金などの減少（△28億円）
- 自己資本比率は29.7%→28.8%（0.9ポイント低下）

# グループ連結 設備投資額/減価償却費/試験研究費

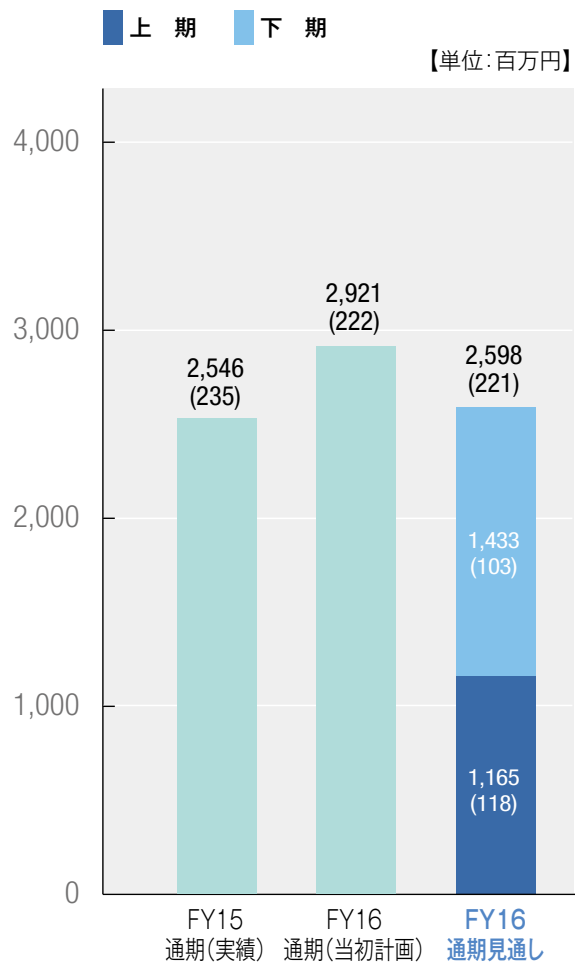


## 設備投資額(連結)



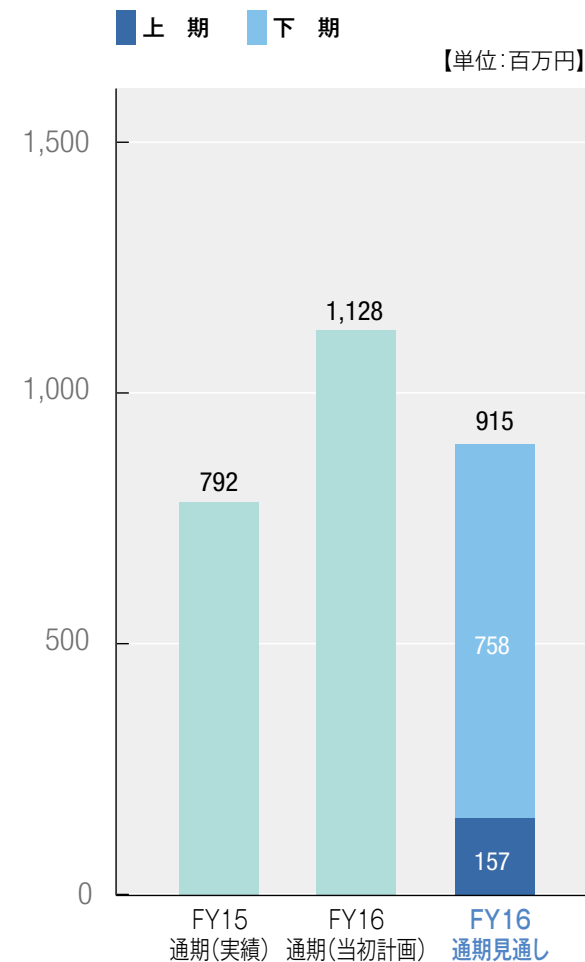
※設備投資には( )内の全リース物件を含む。

## 減価償却費(連結)



※( )内はリース資産分。

## 試験研究費(連結)



(注)当初計画とは、2016年5月18日の決算発表時の業績予想数値です。

## 1 グループ各社の状況 (FY16/上期)

【単位:百万円】

	当社	新潟 ジャムコ	宮崎 ジャムコ	中条 ジャムコ	ジャムコ アメリカ	ジャムコ エアロデザイン エンジニアリング	ジャムコ シンガポール	ジャムコ フィリピン	ジャムコ エアロ マニユファク チャリング	徳島 ジャムコ	ジャムコ エアロテック	オレンジ ジャムコ	シンガポール ジャムコ サービス
売上高	34,756	1,895	1,595	341	10,905	428	1,716	329	567	349	214	45	1,612
営業利益	△ 54	116	△ 2	16	△ 547 (△ 638)	58	32	54	△ 29	14	13	△ 0	82
経常利益	△ 1,214	123	1	23	△ 620 (△ 700)	61	33	49	△ 10	15	13	△ 0	82
当期純利益	△ 775	90	0	15	△ 394 (△ 443)	50	26	43	△ 7	10	8	△ 0	68

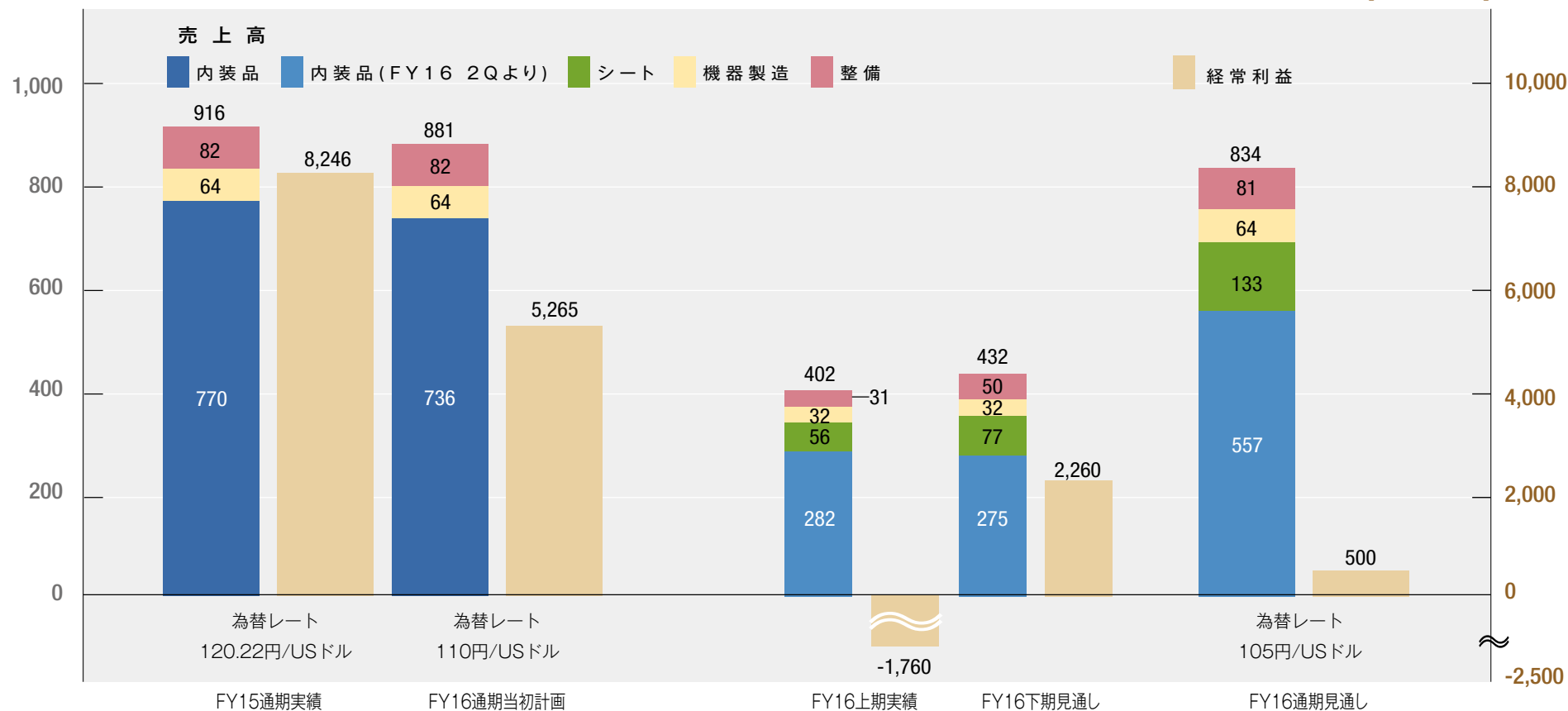
(注1)シンガポールジャムコサービスは持分法適用関連会社です。

(注2)ジャムコアメリカは787関連開発費の償却について当社と同じ基準で会計処理しています。括弧内の数値は「米国基準」における数値です。

## 通期見通し

【単位：億円】

【単位：百万円】



## Point

## FY16通期見通し(当初計画対比)

- 売上高 ●円高による売上高の目減り(△22億円)  
●各種製品・サービスの売上高減少 (△24億円)
- 経常利益 ●売上高の減少、工事損失引当金の追加計上などによる減少(△46億円)  
●販管費減少(9億円益)、為替差損の発生(△11億円)

## FY16下期の見通し(FY16上期実績対比)

- 売上高 ●円高による売上高の目減り(△10億円)  
●各種製品・サービスの売上高増加(+40億円)  
売上高増加の内訳(シート+21億円、整備+18億円、他+1億円)
- 経常利益 ●売上高の増加、工事損失引当金取崩などによる増加(+30億円)  
●販管費増加(6億円損)、上期の為替差損の反動など(+16億円)



# 重要項目と課題進捗

- 15 | 中期ビジョン
- 16 | 中期の課題と対応
- 17 | 中期課題の進捗

# SECTION 2

## 中期ビジョン

- **航空機分野に特化し、内装品事業を基軸に、機器製造、航空機整備の機能を併せ持つオンリーワンの航空機総合企業を目指す**

## 中期経営方針

- **連結売上高1,000億円を目指した事業戦略の推進**
- **品質と技術に更に磨きをかけ、革新的製品投入により競争力を強化**
- **生産コスト削減の強化**
- **全社組織再編による製造部門の統合とシート事業の基盤整備**

## 内装品セグメント/シートセグメント

- ① 生産技術の革新を加速し、コスト競争力を一段と強化
- ② サプライチェーンを強化し、品質・コスト・リードタイムをより一層改善
- ③ 革新的な技術と製品により競争力を強化し、顧客との協力関係を更に確固たるものにして、世界シェアNO.1を確保
- ④ シート事業の設計、開発、調達、生産すべてにおけるコストダウンを加速

## 機器製造セグメント

- ① 関連企業を含め品質及び生産効率向上の追求による収益性の向上
- ② 国内外の新たな顧客開拓を促進し、受注を拡大
- ③ 新たな開発プロジェクトへの参画等を通じて新製品を受注
- ④ 炭素繊維複合材成型などの製造技術を内装品に応用

## 整備セグメント

- ① 飛行安全の確保と品質保証体制のたゆまぬ強化
- ② 付加価値の高い新たなビジネスへの取組みを強化
- ③ 海外市場への展開や製造会社との協業の推進
- ④ 沖縄MRO-Japan事業参画への準備を推進

## 内装品セグメント

### 生産性の向上

- ラバトリーについては導入済みの製造工程進捗状況管理システムをギャレーに展開
- 自動化、機械化の推進
- ペーパーレス化を推進
- J-way 2016活動推進 (JAMCOモノづくり改革)

### 技術革新の推進

- 次世代のギャレー『Galley X』のデザインコンセプト発表
- 要素技術開発：新ハニカムパネルの開発 (NEDO事業)



エアバスA350向け ICEリアギャレー

### 成長戦略の実行

- ボーイング777X型機向け新型ラバトリー開発
- エアバスA350型機向けICE (Increased Cabin Efficiency) リアギャレー開発

### 製造エリアの拡張

- 新潟ジャムコ第二工場 (1,900㎡) ・第三工場 (2,000㎡) 操業開始
  - 第二工場－エアバスA350型機向けICEリアギャレー生産準備中
  - 第三工場－ボーイング787型機向け機体後部ギャレー5月生産開始

## 中期課題の進捗②

## シートセグメント

### コスト削減の取組み

- 設計ノウハウの蓄積による開発費抑制ーデザイン標準化、部品共通化
- 素材メーカーとの協業などにより購入部品価格を低減
- 工程管理強化
- 輸送費削減

### 生産性の向上

- 宮崎ジャムコ第二工場（シート生産マザー工場）本格稼働
  - セル生産による少量多品種への対応
  - 無人搬送車、電動リフター付き作業ステージの導入
  - ITによる生産管理システム、ペーパーレス化推進

### 売上拡大

- プレミアムクラスシート市場におけるシェア拡大
  - 次世代のプレミアムクラスシート『Space X』のデザインコンセプト発表
  - 国内外の戦略パートナーとの協業、製品付加価値向上、技術開発力・製造能力を強化
  - 機体メーカーカタログシートとエアライン仕様によるオーダーメイドシートの二路線で拡販
- 納入2,300席以上、受注残3,200席以上（2016年9月末現在）



## 機器製造セグメント

### 売上の増大

---

- 炭素繊維構造部材の新たな部位への展開

### 収益性の向上

---

- ジャムコエアロマニューファクチャリングを含めた改善活動を強化

## 整備セグメント

### 飛行安全

---

- 引き続き高品質な航空機整備作業を提供

### 新たなビジネスモデル

---

- 航空機部品販売ビジネスへの取組み
- 海外装備品整備に向けた装備品メーカーとの連携

# 2017年3月期 第2四半期決算説明会 添付資料

- 21 | 企業グループ概要
- 22 | 事業概要①/航空機内装品関連事業
- 23 | 事業概要②/航空機シート関連事業
- 24 | 事業概要③/航空機器製造関連事業
- 25 | 事業概要④/航空機整備関連事業
- 26 | 事業概要⑤/国内関連会社
- 27 | 事業概要⑥/海外関連会社
- 28 | 経営環境と市場動向－航空機メーカーの動向
- 29 | 経営環境と市場動向－新型旅客機の開発・生産状況
- 30 | ボーイング、エアバス2016年実績
- 31 | ボーイング(2016年1月～6月累計)
- 32 | エアバス(2016年1月～6月累計)
- 33 | 世界の航空旅客予測
- 34 | ジェット機の運航機材構成予測

## SECTION 3

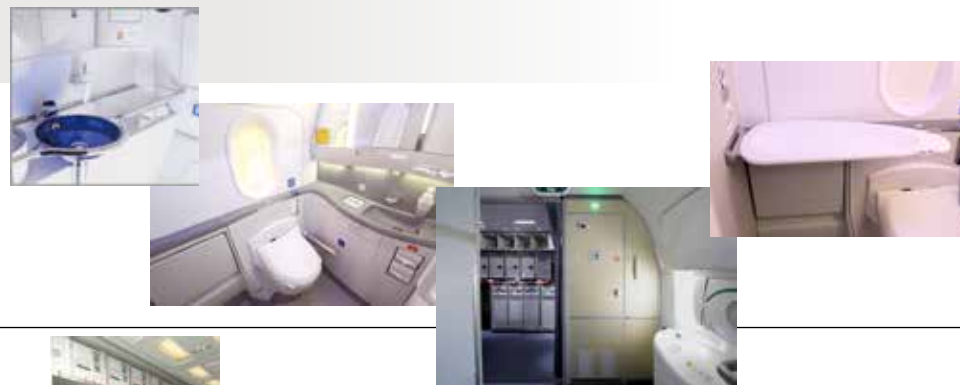
## 企業グループ概要



## 航空機内装品製造事業

### 航空機用ラバトリー（化粧室）の製造

- ボーイング747-8・767・777・777X・787向け  
ラバトリーを独占供給



### 航空機用ギャレー（厨房設備）の製造

- ボーイング747-8・777・787・767・737に搭載
- エアバスA380・A330・A340・A320に搭載
- 世界の航空会社約100社へ納入
- 787向けギャレーを独占供給
- A350向けICE (Increased Cabin Efficiency) リアギャレーを供給



### 航空機改修事業

- 客室内装備品の新規搭載、配置換え、及びキャビンクルーの  
休憩室搭載等に関する、設計、プロジェクトの管理、取付用部品の製造と認証取得
- アメリカ連邦航空局 (FAA) よりODA認定を取得 (ジャムコアメリカ)  
FAAに代わって航空機客室改造の追加型式証明の発行が可能
- 欧州航空安全庁 (EASA) より設計認証 (DOA) を取得 (ジャムコエアロデザイン & エンジニアリング)



## 航空機シート製造事業

### 航空機用シートの製造

- エアバス向けA350 ACS (Airbus Contracted Supplier) シート  
商品名Journey™ ビジネスクラスシート
- シンガポール航空向けファースト、ビジネスクラスシート  
ボーイング777-300ER用ファースト、ビジネスクラスシート  
エアバスA350用ビジネスクラスシート
- 新型プレミアムシートDoveTail™の顧客獲得を目指す



### 航空機用シートコンソールの製造

- プレミアムクラス シートコンソール  
シンガポール航空エアバスA380用スイートクラス・シートコンソール  
全日空ボーイング777-300ER用ファーストクラス・シートコンソール

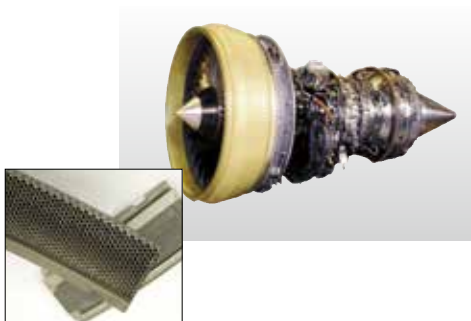




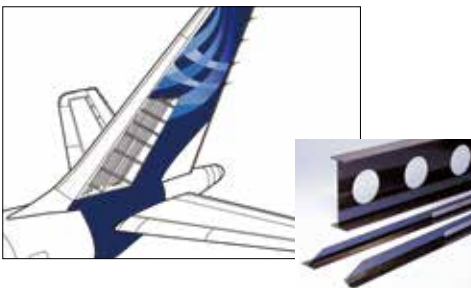
## 航空機器製造事業



航空機用熱交換器及び  
各種航空機搭載機器の製造



ジェットエンジン部品の製造



航空機用炭素繊維構造部材の製造

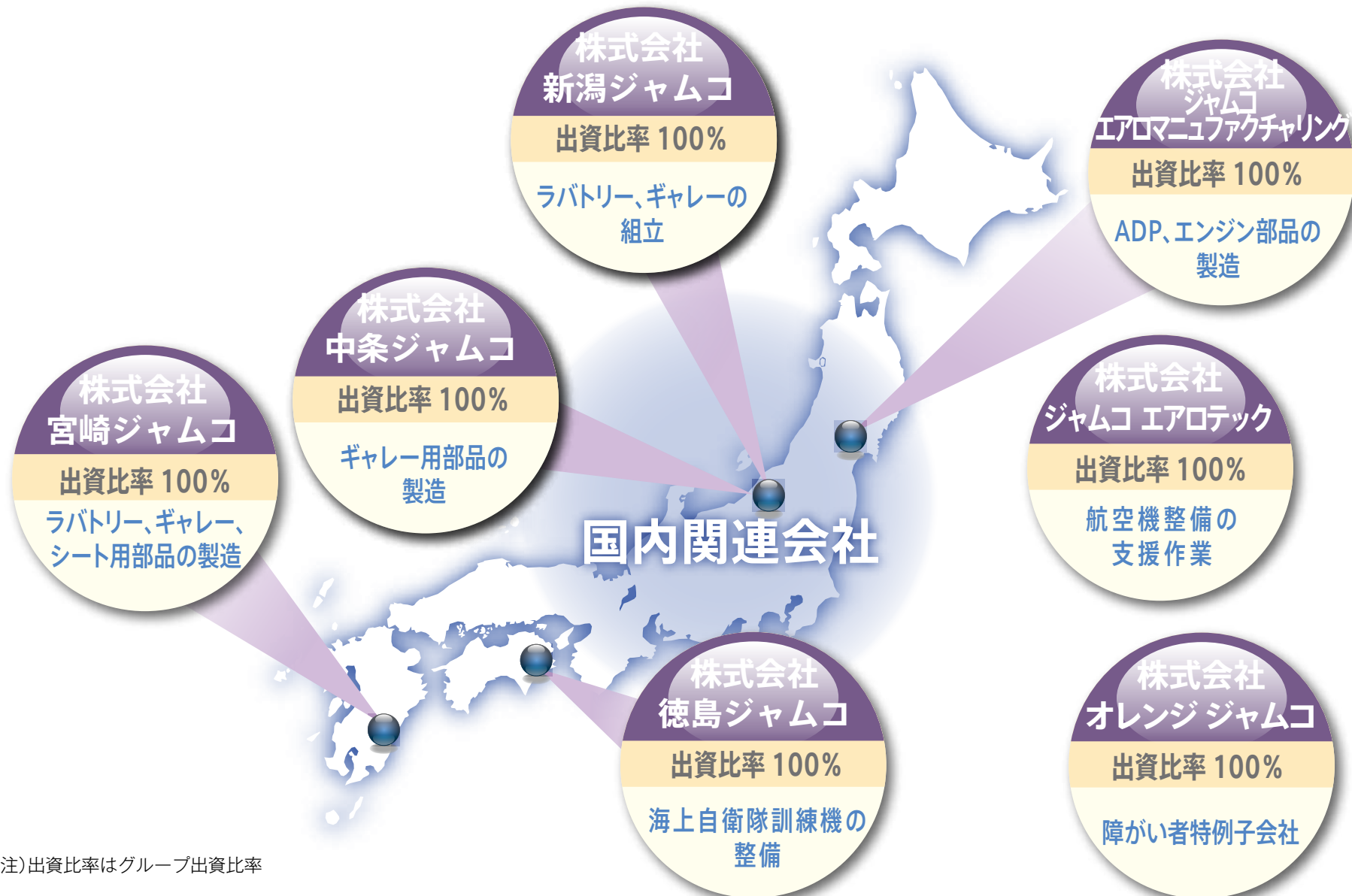
- エアバスA380用2階床構造部材 (ADP)
- エアバスA350を除くエアバス機の垂直尾翼構造部材 (ADP)
- エアバスA350貨物室床下構造材

## 航空機整備事業



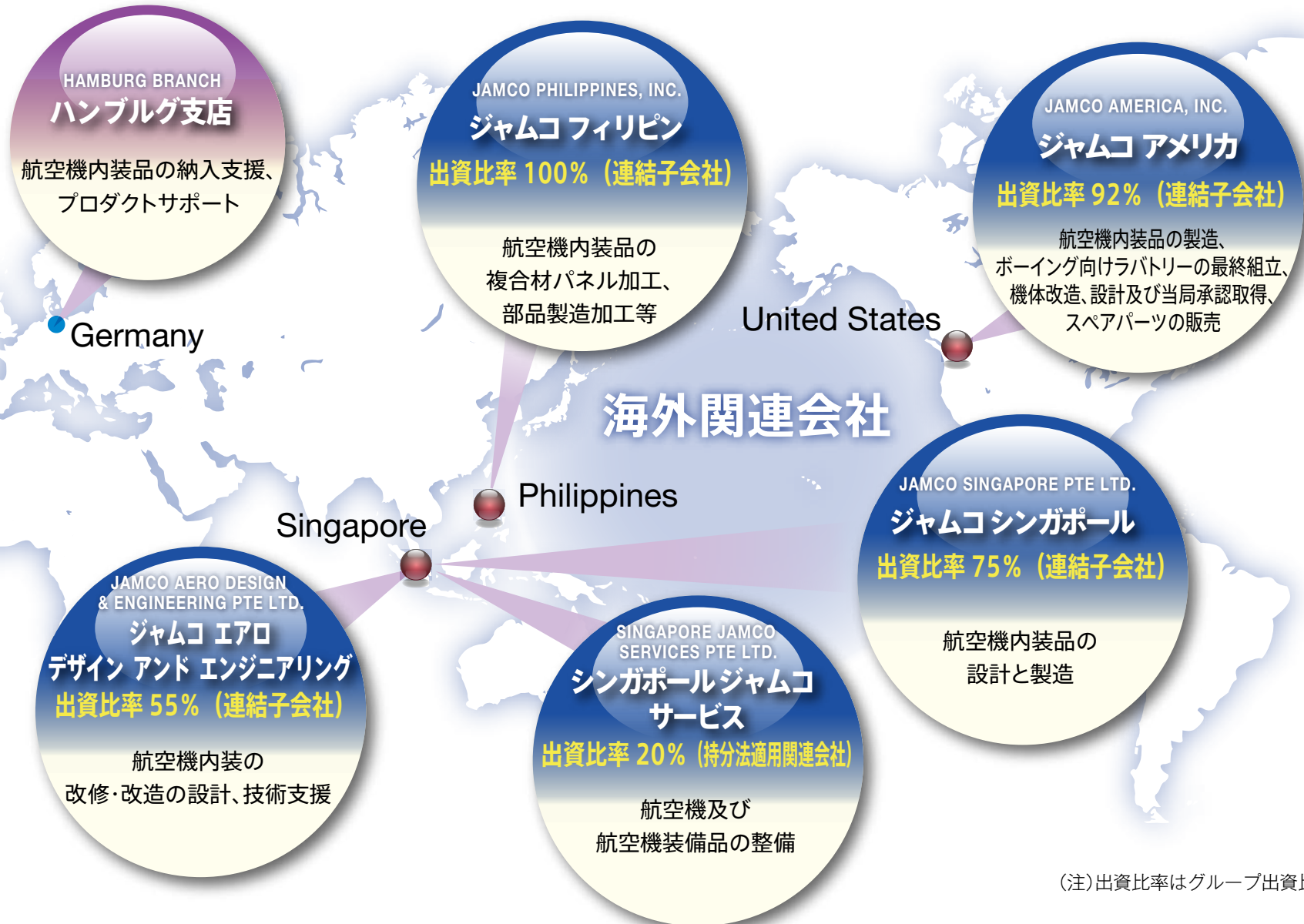
### 防衛省、海上保安庁、国土交通省航空局、 航空大学校、エアラインなどの航空機、 装備品整備事業

- 中型・小型航空機及びヘリコプターの整備・改造
- リージョナル機の整備
- プロペラ、脚、航空電子機器の整備
- 車輪、ブレーキ、救難用ホイス（吊り上げ装置）のオーバーホール
- 大型旅客機客室内装備品の整備
- エマージェンシー フロート/ エバキュエーション スライドの整備



(注)出資比率はグループ出資比率

## 事業概要 ⑥



## 航空機メーカーの動向

## ボーイング社の受注残機数

狭胴機

4,345 機

(前年同期 4,253機)

広胴機

1,305 機

(前年同期 1,436機)

## エアバス社の受注残機数

狭胴機

5,466 機

(前年同期 5,181機)

広胴機

1,250 機

(前年同期 1,249機)

(注)2016年6月末時点

出所：ボーイング社 HP、エアバス社 HP



# 新型旅客機の開発・生産状況

## ■ 787の生産状況

- 2016年9月末日現在、467機の引き渡しを完了
- 2016年9月末日現在、受注残機数は694機

## ■ 777Xの開発状況

- 2020年に初号機引き渡し予定
- 2016年9月末日現在、受注残機数は306機

## ■ 737MAXの開発状況

- 2017年に初号機引き渡し予定
- 2016年9月末日現在、受注残機数は3,331機

## ■ A380の生産状況

- 2016年9月末日現在、195機の引き渡しを完了
- 2016年9月末日現在、受注残機数は124機

## ■ A350XWBの生産状況

- 2016年9月末日現在、41機の引き渡しを完了
- 2016年9月末日現在、受注残機数は769機

## ■ A330neoの開発状況

- 2017年10月-12月に初号機引き渡し予定
- 2016年9月末日現在、受注残機数は186機

## ■ A320neoの生産状況

- 2016年9月末日現在、24機の引き渡しを完了
- 2016年9月末日現在、受注残機数は3,420機

(注)受注データについてはボーイング社、エアバス社HPより

## ボーイング・エアバスの受注・納入状況

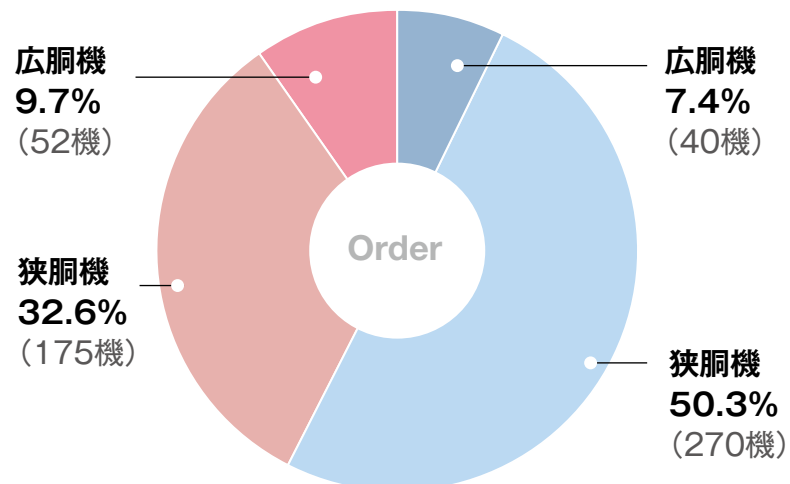
(2016年1月～6月累計)

## 受注状況

●エアバス社

42.3%  
(227機)

●ボーイング社

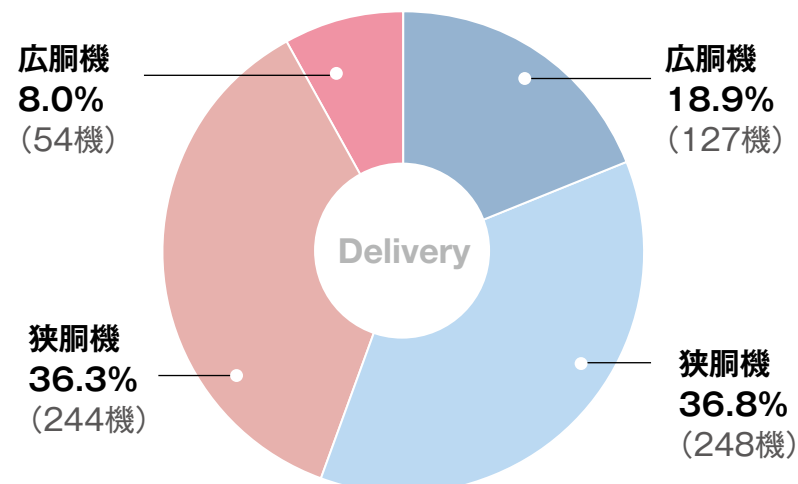
57.7%  
(310機)

## 納入状況

●エアバス社

44.3%  
(298機)

●ボーイング社

55.7%  
(375機)

出所：ボーイング社 HP、エアバス社 HP

## ボーイングの受注・納入状況

(2016年1月～6月累計)

	受 注	納 入	受 注 残
ボーイング合計	310	375	5,650
<b>747</b>	4	3	20
<b>777</b>	12	51	479
<b>787</b>	17	68	724
<b>767</b>	7	5	82
<b>737</b>	270	248	4,345

(注)   色の機種は広胴機（ワイドボディー機）を示す。

出所：ボーイング社 HP

## エアバスの受注・納入状況

(2016年1月～6月累計)

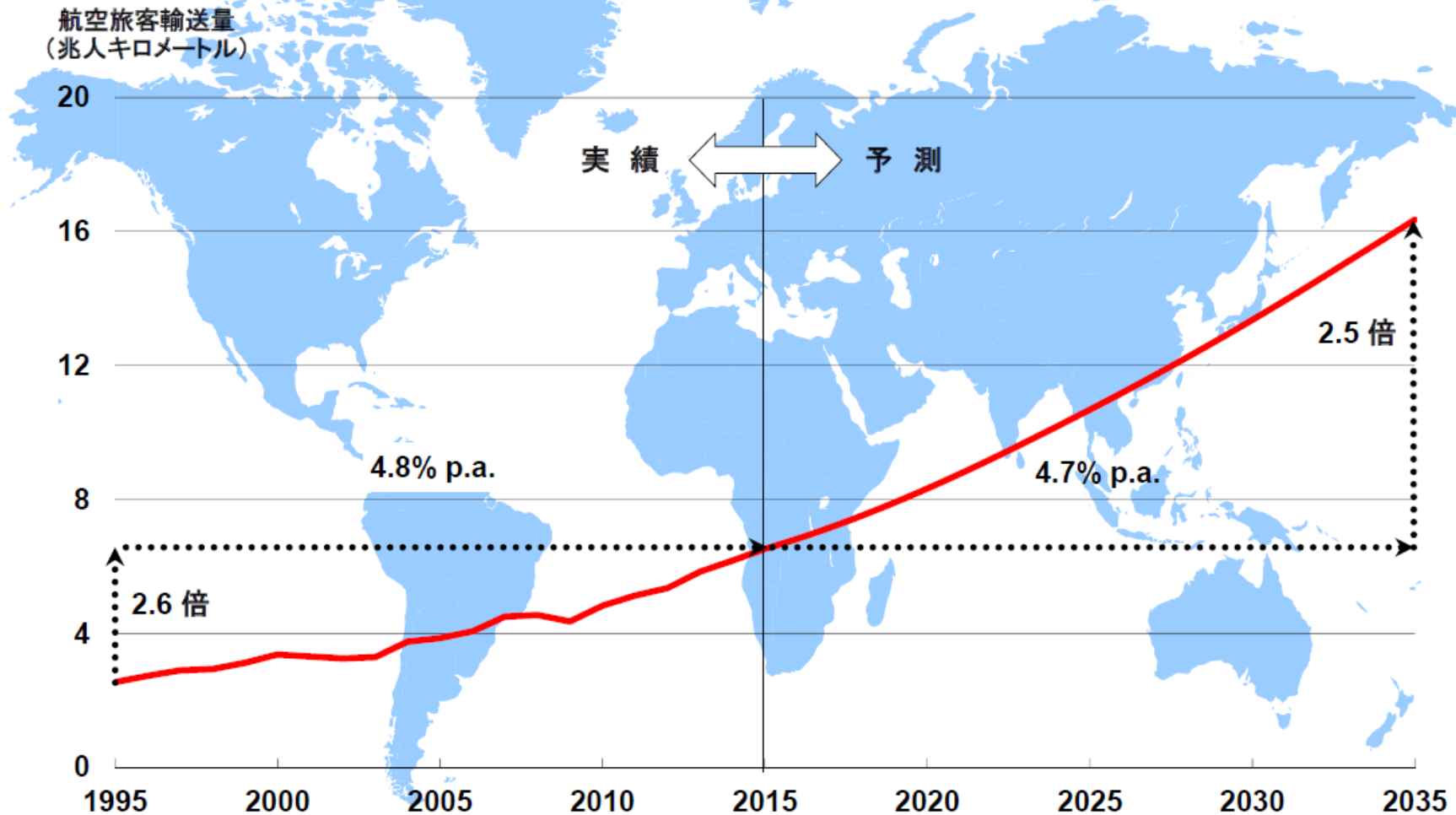
	受 注	納 入	受 注 残
エアバス合計	227	298	6,716
<b>A380</b>	0	14	126
<b>A350</b>	25	12	775
<b>A330/A340</b>	27	28	349
<b>A320ファミリー</b>	175	244	5,466

(注) ■色の機種は広胴機（ワイドボディー機）を示す。

出所：エアバス社 HP

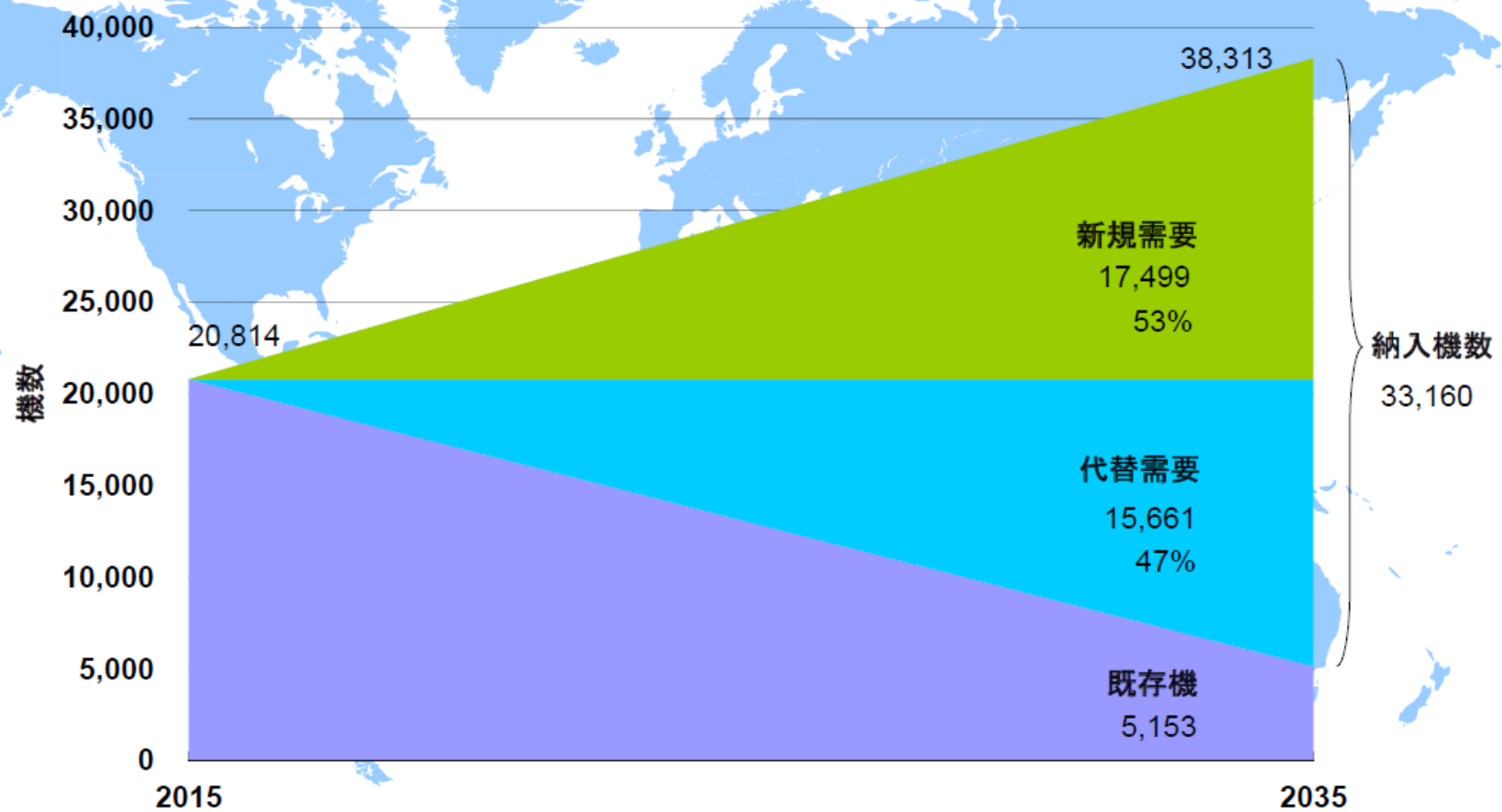
## 世界の航空旅客予測

2016－2035年の20年間のRPK成長率は年平均4.7%と予測



## ジェット機の運航機材構成予測

今後20年間の世界の需要は33,160機、その内新規需要は17,499機





技術を翼に世界の空へ

 **Jamco**  
ALWAYS FLY TOGETHER



*Always Fly Together*